

平成14年11月に第一回「台湾教育史現地調査」を実施し、その概要について「全人」(平成15年4月号)で報告した。この調査の大きな目的の一つに、公学校教育経験者から、公学校時代の学校生活について聞き取りを行うことがあった。公学校とは、戦前の台湾で日本語を常用しない子どもが通学した小学校相当の学校である。

今回、教育博物館で初めて行った「聞き取り調査」について述べてみたい。

聞き取り調査の最大の利点は、文献資料に書かれていないことなどを、本人から直接話を聞けることである。昭和ヒトケタ台に公学校に通学した方たちの多くは「裸足で通学した」と言う。このようなことは、当時として当たり前すぎるためのか、また、内容が陳腐であるためか、台湾教育史関係の図書の中には書かれていない。しかし、当時の台湾の子どもたちの日常を知る上で大切なことである。事実、昭和4年発行の修身教科書の挿絵に描かれている台湾の子どもたちは、みな裸足である。そうした事柄を、本人から聞くことができるのが聞き取り調査の良さというものである。子どもたちは裸足で通学してきて、校門の前で靴を履いていたようだ。靴を履いて通学していたのは台北のような都市部の一部のみで、ほとんどの町村では裸足で通学していたようである。では、いつごろから靴を履いて通学するようになったのだろうか。そうした新たな疑問についても、その都度質問できることが、聞き取りの良さである。

聞き取り調査での一番の問題点は、被調査者が記憶違いを話すことが予想されることである。長い年月の間に記憶が定かでないのはやむを得ない。そのような時は多くの類似資料を得たり、他資料からの裏付けをとることで、正確さを図るようにす



調査協力者と(台北・稲江高校にて)

ればよいのである。

初対面の方から数十年もの昔のことを聞き出すというのは簡単なことではない。台湾山間部の調査をされた方は、三日三晩酒を飲んで踊ってという暮らしを共にして漸く受け入れられ、聞き取りに協力していただけたと報告をしている。また、南洋の小島に数年にわたって訪問し続けて、ようやく胸襟を開いてくれた等の苦勞話をしてくださった方もいる。自分の苦しかった時代の体験談を話すことで、調査者が気を悪くするのではないかと、気遣って話したがらなかった心優しい人と出会った経験を語った方もいた。考えてみれば、初めて会った見ず知らずの日本人に自分の過去を気軽に話すものであろうか。誇れる過去であればともかく、辛く悲しい思い出については口が堅くなるのも当然である。話を聞くということは、両者の間にそれなりの時間が必要なのであろう。

目下の急ぐべき聞き取りの対象は、公学校の教職経験者であろう。終戦を30歳で迎えた方ならば、現在88歳になられている。教職経験者のみならず、公学校教育を経験されている方々の高齢化は、時間の進行という厳しい問題との競走である。聞き取りが可能な、今という時代に居あわせていることに感謝しつつ、調査を重ねたいと考えている。

(しらやなぎ ひろゆき/教育博物館学芸員)

展覧会への招待

Rouault and Icons

IMAGES OF THE HOLY

ルオーとイコン ～描かれた聖像～



この展覧会は、ジョルジュ・ルオー(1871-1958)の作品とイコンをもとに、聖なるイメージを全体テーマとして構成したものです。

20世紀を代表するフランスの画家ルオーは、パリの木工職人の家に生まれ、ステンドグラス職人に弟子入りしたのちに装飾美術学校、そしてエコール・デ・ボザールのギュスターブ・モロー教室で美術を学びました。活動の初期以降、彼は厚い宗教心のもとに、人間の弱さ、みにくさ、情念などを強く意識しながら、道化師、娼婦、貧者などを題材にした、荒々しいタッチで描かれた絵により、フォービスム(野獣派)のひとりとして知られます。やがて彼は絶望的な彩りから主題をキリスト教へと移し、豊かなマチエールをもった聖なる画面を追究していきました。

一方、イコンはギリシア語の「エイコーン」(像)が変化した言葉で、主として東方正教会で崇拝されているテンペラ技法を用いた板

絵の聖画像をさします。イコンには、キリスト、聖母、聖人があらわされたもののほか、キリストや聖母の生涯、聖人伝など聖書の一場面、また複数の場面で構成されたものなどがあります。その慈愛に満ち、厳かな画面は、単なる画像ではなく、「天上の国と地上の国との間の窓」であり、映し出された神の国を仰ぎ見るものといわれています。

本展には、国内有数のイコン・コレクションを誇る当館の所蔵イコン35点が出品されます。絵画的な構図やテーマ、そしてその深い宗教性と強いメッセージ性など、ルオーの作品とイコンの類似点に焦点をあてた今回の展示により、時代や国を越えて受け継がれた聖なるイメージを堪能していただければ幸いです。(柿崎博孝記)

(写真左)ルオー「十字架上のキリスト」松下電工NAISミュージアム蔵 ©ADAGP, Paris & JACS, Tokyo, 2003 (写真右)「マンディリオン」ロシア・イコン当館蔵

ルオーとイコン ～描かれた聖像～

会場 松下電工NAISミュージアム

主催：松下電工NAISミュージアム・玉川大学教育博物館
 会期：2004年3月27日(土)～6月13日(日)
 開館時間：午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
 休館日：毎週月曜(祝祭日は開館)
 入館料：一般500円、大高生300円、中小生200円
 (65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方は400円)
 ギャラリートーク：4月17日(土)午後2時から
 講師 イオアン高橋神父(東京復活大聖堂 長司祭)
 講演会：6月5日(土)午後2時から
 講師 イオアン高橋神父
 要予約・参加費無料(定員になり次第締め切らせて頂きます)
 往復はがきにて、①お名前 ②ご住所 ③電話・FAX番号 ④年齢
 ⑤ご職業 ⑥申込み人数(はがき1枚で2名まで)を記入のうえ
 〒105-8301 東京都港区東新橋1-5-1
 「松下電工NAISミュージアム事務局・イコン講演会係」まで
 お送りください。

松下電工NAISミュージアム

〒105-8301 東京都港区東新橋1-5-1
 松下電工ビル4階
 ハローダイヤル 03-5777-8600
 siodome.nais.jp
 JR線新橋駅「銀座口」から昭和通り方面へ徒歩3分・
 「汐留口」から地盤歩道をシオサイト方面へ徒歩5分
 常陸浅草線新橋駅改札からシオサイト方面へ徒歩3分
 都営大江戸線汐留駅「5・6番出口」から銀座方面へ
 徒歩1分
 ゆりかもめ線新橋駅からシオサイト方面へ徒歩3分